

平成29年度

# 研究部報

秋田県立横手支援学校 研究部  
平成30年1月22日発行 第5号

9月、11月、12月に実施した全校授業研究会では、特別支援教育課指導主事の先生だけでなく、同行訪問の先生方からも助言を含めてお話をいただきました。時期が遅くなりましたが、今回はそのお話の内容について紹介します。

## 第1回全校授業研究会

### 高等部1年1グループ 家庭科「見つめてみよう家庭の仕事Ⅱ～家族の一員として～」

#### ○生徒が安心感をもって参加できる授業

- ・めあて、まとめ、ゴールのプロセスを提示することで学習の流れが分かっていた。
- ・発言を付箋に書いて、提示することで、自分や友達の発言を視覚的に確認できていた。
- ・教師の肯定的な発言・対応や、生徒が自分で気付くきっかけとなる発問で自信をもてた。

#### ○学習規律、学習に向かう姿勢

- ・教師の指示に反応し、顔を向け、指示を聞いていた。「目で人の話を聞く」
- ・リラックスしながらもしっかりと学んでいる。教師との普段からの関係性、指導の成果。

#### ○社会生活につながる学習内容

- ・「正しいやり方（効率的な方法）」を考え、学び、身に付けるプロセスは社会生活を豊かに幸せにするプロセスにつながる。

高校教育課 指導主事 青山博輝先生より

## 第2回全校授業研究会

### 中学部1年合同 家庭科「見つめてみよう家庭の仕事Ⅱ～家族の一員として～」

#### ○生徒同士の学び合い、認め合いがみえる授業

- ・活動内容が違って、お互いの活動の様子を見て、それぞれが何をしているのかが分かっている。
- ・↑この理解が、友達の発表する様子をじっくりと見守る姿へとつながった。
- ・1グループの発表内容がとても具体的であった。友達との話し合いを通して、自分が実際に活動する場面がしっかりと想定できていた表れである。

#### ○教材や環境の工夫について

- ・家族からのメッセージは意欲につながる。手元など参照しやすい所にあるといい。
- ・鮭フレークを入れる練習等、実物に近い質感の教材を用意する。可能なら実物を。
- ・板書の情報量の精選を。今必要な情報だけをしっかりと伝える。

南教育事務所雄勝出張所 指導主事 住吉聡子先生より

## 第3回全校授業研究会

### 小学部5年1組日常生活の指導 「朝の活動・朝の会をしよう～げんき・えがお・みんなでレッツゴー!～」

#### ○児童が安心感をもてるような工夫

- ・学校を明るく笑顔で過ごせる場所だと児童が思えることが大切である。
- ・児童一人一人について、どうしたら安心して授業に参加できるか、普段の関わりから判断し臨機応変に対応する想像力が授業者にあった。
- ・「やらせたいこと」→「やってほしいという思い」に変換し、その思いを伝えることを大切に対応していた。思いを伝え、児童の主體的な動きを信じて待つ姿勢が教師間で共有されていた。

#### ○生徒指導の立場（生徒指導の3つのポイント）から

- ・自己決定…やれること、できそうなことを活動に設定していた。できたという自信につながる。
- ・共感的人間関係…友達の存在を認めて待つ。声を合わせる、手拍子をそろえる等
- ・自己存在感…一人一人に役割があり、それが集団としてシンクロしていた。  
→自己肯定、自己コントロールが育ち、社会性へとつながる。

南教育事務所 指導主事 大石照彦先生より